

パラメータについて

(注) 通常、パラメータは変更しないでください。

- ❖ カウンタ機能に影響を与えるものですので設定値を変更するときなどは十分ご注意ください。
- ❖ 標準パラメータの設定を行うと座標値バックアップされていた値や原点ホールド時に記憶された座標値は全て失われてしまいます。
- ❖ パラメータを設定する場合まずパラメータ1番のスケール分解能を設定してください。
その分解能により他のパラメータの小数点位置が決定します。

標準パラメータを設定するには

1. ☐ **X₀** キーを押しながら電源を投入します。

主表示が右のようになります。

ready

設定しないときは、このままの状態
電源を切ってください。

設定するときは、☐ **ENTR** キーを押してください。
標準パラメータが書き込まれます。

書き込み中の表示

PRSS-1

PRSS-2

PRSS-3

2. 標準パラメータの値 (パラメータ一覧参照) が設定
されました。

以後、通常の電源投入後と同じ状態になります。

パラメータの設定値を変更するには

例 パラメータ2番 (アブソリュート原点シフト量)

X軸の設定値を 12.500 にするには

1. ☐ **UNIT** キーを押しながら電源を投入します。

-SP01

パラメータ番号を入れます。

2. ☐ **2** ☐ **ENTR** を押します。

-SP02

3. パラメータ2番の内容が呼び出され表示されます。

0000

0000

この時 ☐ **X₀** キーを

押すごとに内容表示と番号表示が切り換わります。

各軸ごとに設定できますので軸を選択します。

4. ☐ **X** を押します。

0000*

0000

変更したい値を入れます。

5. ☐ **1** ☐ **2** ☐ **.** ☐ **5** と押します。

6. ☐ **ENTR** を押します。

12.500

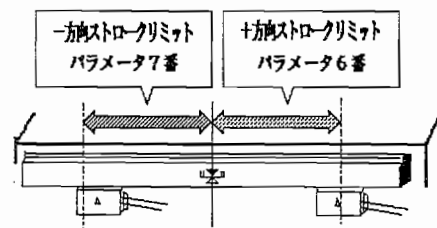
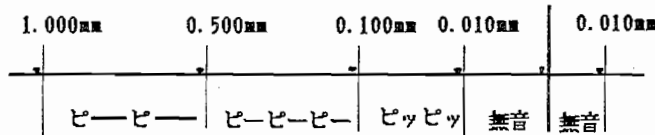
0.000

7. パワースイッチを押し電源を切ります。

次回、電源を投入した時点から変更された設定値が
有効となります。

パラメータ一覧

注. 明記されていないパラメータの内容については、全て標準設定のままにしておいてください。

番号	内 容	標 準 設 定	設 定 値 詳 細
1	スケール分解能	00001001 (1 μ m)	00001000 = 0.5 μ m 00001100 = 10 μ m 00001001 = 1 μ m 00001101 = 25 μ m 00001011 = 5 μ m 00001110 = 50 μ m
2	アブソリュート 原点シフト量	0.000	設定可能な値 $\pm$ 99999.999mm
3	ワーク原点シフト量	0.000	設定可能な値 $\pm$ 99999.999mm
4	基準面シフト量	0.000	設定可能な値 $\pm$ 99999.999mm
5	ロストモーション補正	0.000	設定可能な値 $\pm$ 99999.999mm
6	+ストロークリミット値	1000.000	設定可能な値 $\pm$ 99999.999mm 
7	-ストロークリミット値	-1000.000	
8	プレイバックブザー範囲1	0.010	設定可能な値 $\pm$ 99999.999mm 目標値 
9	プレイバックブザー範囲2	0.100	
10	プレイバックブザー範囲3	0.500	
11	プレイバックブザー範囲4	1.000	
20	スケールリング値	0	設定可能な値 -999 ~ +999
30	スケール読取り方向	00000000	00000000 = スケール極性 + 00000001 = スケール極性 -
31	スムージング	00000000	00000000 = スムージング機能 無効 00000001 = スムージング機能 有効
34	プリント	00000000	00000000 1桁目 2桁目 = 0: 外部プリント 無効 3桁目 1: 外部プリント 有効 4桁目 5桁目 = 0: セントロニクス選択 6桁目 1: RS-232C選択 7桁目 8桁目
35	RS-232C 通信速度	00100000 (4800bps)	00000001 = 150 bps 00010000 = 2400 bps 00000010 = 300 bps 00100000 = 4800 bps 00000100 = 600 bps 01000000 = 9600 bps 00001000 = 1200 bps
36	RS-232C 通信形式	01111000 (7ビット 1ストップ 偶数パリティ)	00000000 1桁目 2桁目 = 0: DC1/DC3 無 1: DC1/DC3 有 3桁目 = 0 4桁目 = 0 5桁目 = 0 6桁目 = 0 7桁目 = 1 8桁目 = 0 [] ビット長7ビット 0 ビット長8ビット 1 5桁目 = 0: パリティ 無 1: パリティ 有 6桁目 = 0: 奇数 1: 偶数 [] 1ストップビット 1 2ストップビット 1
40	電源ダウン時の 座標値記憶	00000000	00000000 8桁目 = 0: 電源ダウン時の座標値記憶機能 無効 1: 電源ダウン時の座標値記憶機能 有効

エラーについて

エラー番号	エラー表示	エラー内容	エラー解除方法
	(小数点のみの表示)	電源投入時以外に表示された場合 瞬時停電の発生を知らせます。	1. 電源を調べてください。
5	5 Error	スケールエラーが発生しました。 スケール側に異常が発生した場合に 各軸に対して表示されます。	1. CE を押します。 2. スケール原点を検出します。
6	6 Error	バッテリーエラーが発生しました。	1. CE を押します。 2. 精密機器サービス課に連絡します。
27	27 Error	オーバートラベルが発生しました。 現在値が、スケール原点から+方向、 または一方のストロークリミットを 越えたとき各軸に対して表示されます。 これは原点検出後、監視します。 	1. ストロークリミットの設定値内に 軸を移動させます。
42	42 Error	パラメータの内容が消えました。 これは電源投入時にのみ監視します。	1. パワースイッチを押し電源を 切ります。 5秒ほど待ってから 2. X₀ を押しながら電源を入れ ますと標準パラメータが書き込ま れます。 (変更したパラメータについては再度 設定し直してください。)
44	44 Error	メモリーの内容が壊れました。 これは電源投入時にのみ監視します。	1. パワースイッチを押し電源を 切ります。 5秒ほど待ってから 2. ENTR を押しながら電源を入れ ますとメモリーの内容がすべて クリアされます。
68	68 Error	多点補正を使用し0.000mmでの 補正量が設定されていません。	1. CE を押します。 2. 多点補正を正しく設定し直します。
	of	表示範囲±99999.999を 越えました。	1. 読取位置を表示範囲内に 戻してください。

CMJ パラメータ

1. **UNIT** キーを押しながら、電源を入れる **SP01**

2. **X0** ... SP01の内容をリセット

0000 100 1 (1st)

3. **X** **1** **0** **1** **1** **ENT**

0000 1011 (5th)

4. **X0** ... SP01に戻る

5. **3** **0** **ENT**

00000000 (+)

6. **X** **1** **ENT**

00000001 (-)

7. 電源を切る

標準パラメータ

1. **X0** キーを押しながら、電源を入れる Ready

2. **ENT** キーを押す PASS1, PASS2, PASS3 で初期値に